

## < 2009年度 事業報告 >

### 1. 事業の概要

本年度の事業活動の特色は、次の3点になります。

- (1) 「CSOラーニング制度」(※注)においては、過去最多となる40のCSO団体へ69名の派遣を行った。また「全国合宿」を2回開催し、第1回目を早期の9月に開催するとともに外部講師を招くなど、ラーニング生の「基礎教育」の充実を図った。
- (2) 「市民のための環境公開講座」においては、通年講座の開催のほか、「損保ジャパン・首都圏ふれあいの森」協定記念シンポジウムを開催した。(09年12月)
- (3) 「環境保全プロジェクト助成」においては公募活動を本格的に再開させ、応募期間や広報活動の見直しを行うことで応募件数の大幅な増加につなげ、本制度の認知度を高めることができた。

※注：CSO=Civil Society Organization 市民社会組織の略。NPO・NGOを包含する概念。

事業のあらまはは次のとおりです。

#### (1) 環境保全活動に活躍する人材の育成支援(事業予算計2,632万円、実績計2,929万円)

##### ① 「2009年度損保ジャパンCSOラーニング制度」の実施

(予算1,900万円、実績2,183万円)

大学生・大学院生に対する環境CSOでの活動を通しての人材育成、及びCSOに対するマンパワー支援を目的とした本プログラムは、今年で10年目となりました。本年度は合計40のCSOで2009年6月～2010年1月末までインターン活動をする学生を公募し、以下のとおりの応募状況となりました。

地区	応募者数		合格者数		不採用者
関東	75名	(昨年57名)	30名	(昨年28名)	45名
関西	65名	(昨年24名)	20名	(昨年18名)	45名
愛知	23名	(昨年14名)	10名	(昨年10名)	13名
宮城	14名	(昨年10名)	9名	(昨年8名)	5名
合計	177名	(昨年105名)	69名	(昨年64名)	108名

募集に際しては、従来の広報活動を全体的に見直し、募集地域における全ての大学を漏れなくフォローすると共にインターネットを活用した効果的な広報活動を行い、応募者数は過去最多に迫る177名と増加しました。各地区ごとに事前説明会・面接を経て69名がインターン生に決定し、6月には「キックオフミーティング」を各地区で開催しました。

インターン期間中は毎月「定例会」を各地区で開催しました。自分の派遣先CSOでの体験を他のメンバーに伝え、学んだことを整理しより深く考える機会となり、また他のCSOでの取り組みについて知る貴重な機会ともなっています。一方で当財団から「電話対応」や「メールの書き方」など、CSOでの仕事の成果を向上させるための指導をしました。

また、9月には、関東・関西・愛知・宮城地区全てのインターン生、チューターが一堂に会する全国合宿を、環境学習施設「高尾の森わくわくビレッジ」にて開催しました。従来の開催時期（2月）より時期を大幅に早め、インターン活動をより活性化させることを狙いしました。外部講師として枝廣淳子氏（ジャパン・フォー・サステナビリティ共同代表）、関正雄氏（損保ジャパン理事、CSR統括部長）を招いたほか、各地区の活動報告、ディスカッション、活動の振り返りと今後の目標設定など学びの機会を設け、終了後の参加者アンケートで高い評価を得るなど、中間でのラーニング生のモチベーションアップが図られました。

2010年3月には理事会・評議員会の終了後2回目の全国合宿を開催し、1年間の経験を振り返り、学んだことを整理する時間となりました。また今後自分がどのように成長したか、夢や目標を言葉にして、お互いの成長を誓いました。

一方、関東地区ではインターン先の1つである「アサザ基金」との協働で運営している茨城県石岡市の田んぼ「ひょうたんぼ」を、今年も環境活動のフィールドとして訪問しました。水田の一年、草取り・田植え・稲刈りなどの作業を通じて水田を保全することの意義を、学生自身が肌で感じて学ぶ機会となりました。

関西地区では、東近江市にあるインターン先の「愛のまちエコ倶楽部」で行っている菜の花畑で、苗の植え付け合宿を実施しました。菜の花プロジェクトの一環としての取り組みに参加することで、地域の循環型社会のしくみを学びました。

CSO名		人数		
(関東地区)		奨学金	単位	合計
1	アサザ基金	2	0	2
2	ECOPLUS	2	0	2
3	オイスカ	1	0	1
4	オーシャンファミリー	1	0	1
5	環境エネルギー政策研究所	2	0	2
6	環境文明21	1	0	1
7	共存の森ネットワーク	1	0	1
8	国際自然大学校	1	0	1
9	コンサベーション・インターナショナル	2	0	2
10	シーズ・市民活動を支える制度をつくる会	1	0	1
11	持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)	2	0	2
12	ジャパン・フォー・サステナビリティ	2	0	2
13	JUON NETWORK	1	0	1
14	樹木・環境ネットワーク協会	1	0	1
15	新宿環境活動ネット	2	0	2
16	WWFジャパン	1	0	1
17	日本環境教育フォーラム	2	0	2
18	日本自然保護協会	2	0	2
19	バードライフ・アジア	1	0	1
20	パブリックリソースセンター	2	0	2
関東地区計		30	0	30

(注)「奨学金」は活動に対し奨学金を支給する学生を示し、「単位」は奨学金を支給しないが、大学から単位が認定される学生を示す。

CSO名		人数		
(関西地区)		奨学金	単位	合計
1	愛のまちエコ倶楽部	2	0	2
2	安曇川流域・森と家づくりの会	1	0	1
3	大阪自然環境保全協会	2	0	2
4	大阪みどりのトラスト協会	1	0	1
5	環境市民	3	0	3
6	気候ネットワーク	3	0	3
7	京都モデルフォレスト協会	1	0	1
8	地球環境と大気汚染を考える全国市民会議事務局	1	0	1
9	日本ウミガメ協議会	2	0	2
10	びわこ豊稔の郷	3	0	3
11	こども環境活動支援協会	1	0	1
関西地区計		20	0	20
(愛知地区)				
1	オイスカ中部研修センター	3	0	3
2	地域の未来・志援センター	2	0	2
3	中部リサイクル運動市民の会	2	0	2
4	パートナーシップサポートセンター	1	0	1
5	藤前干潟を守る会	2	0	2
愛知地区計		10	0	10
(宮城地区)				
1	仙台いぐね研究会	4	0	4
2	環境会議所東北	1	0	1
3	水環境ネット東北	2	0	2
4	みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	2	0	2
宮城地区計		9	0	9
総合計		69	0	69

今年度で、CSOラーニング制度の卒業生は合計527名となります。来年度は制度発足10周年を記念した冊子の編集、記念シンポジウムを予定しています。今後もより特徴ある環境教育・人材育成のしくみを目指し、一層の制度の充実、推進を図ってまいります。

②CSOによる人材育成事業等への助成（予算100万円、実績115万円）

CSOが自ら行う人材育成事業に対して、5件（115万円）の助成を行いました。

（単位：万円）

	団体名	プロジェクト名	実績
1	「感動塾・みちくさ」実行委員会	平成21年度「感動塾・みちくさ」	25
2	早稲田大学学生環境NPO環境ロドリゲス	全国学生環境ビジネスコンテスト em factory2009	10
3	地域の未来・支援センター	『チームでの問題解決を促すファシリテーション入門講座』 『聴く、書く、感じる、みえてくる～ファシリテーション入門講座～』	10
4	音楽の森	「地域少年の人材育成」メインテーマとする「音楽の森」自然学校運営、ふれあい館運営、合唱団活動支援	30
5	アサザ基金	愛（あきた・いばらき）ニコニコ（二湖二校） 夢未来交流プロジェクト～河童と龍の大交流会～	40
		合計	115

(2) 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及

(事業予算計1,872万円、実績計1,477万円)

①「市民のための環境公開講座」の開催（予算1,200万円、実績871万円）

社団法人日本環境教育フォーラム・株式会社損害保険ジャパンと当財団が共催にて開講している本講座は、本年度で17年目を迎えました。

本年度の通年講座は、金融危機に面した社会の情勢をふまえ、パート1は「危機を乗り越える逆転の発想」と題し、グリーンニューディール政策や、過去に危機を脱した企業の事例を学ぶ機会となりました。また、パート2は「世界の環境最新事情」というテーマで、マスコミや研究者の立場から、グローバルな視点で環境問題を広く伝えていただきました。パート3「くらしと環境」では、食べ物・衣類など、暮らしと環境問題の関係を意識する内容となりました。パート4「生物多様性」では、2010年のCOP10に向けて、現場で生物の保護を実践しているNPOの専門家にお話をいただきました。

残念ながら前年度に比べ受講者が減少しましたが、次年度につきましては、よりタイムリーかつ重要なテーマを厳選し受講者の増加につなげてまいります。

<受講者の状況>

2009年度	パート1	パート2	パート3	パート4
申込者数	133名	218名	177名	168名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	295名	373名	314名	270名

※年間延べ参加者 1,252名

2008年度	パート1	パート2	パート3	パート4
申込者数	213名	198名	208名	173名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	443名	389名	373名	306名

※年間延べ参加者 1,511名

<通年講座の内容>

パート1. 危機をのりきる逆転の発想

回目	テーマ	講師	
1 2009年7月14日	オバマ米大統領の グリーンニューディール政策	ロバート・F・ セキュータ	米国大使館 経済担当公使
2 2009年7月21日	危機をチャンスに！ ーCVCCエンジン開発秘話ー	石津谷 彰	元本田技研工業株式会社 常務取締役
3 2009年7月28日	山川は国の本なり ー近世の治山論から学ぶー	佐久間 正	長崎大学 環境科学部教授

パート2. 世界の環境最新事情

回目	テーマ	講師	
1 2009年9月8日	こんなまちに住みたい ー環境先進国スウェーデンの取り組みー	松田 美夜子	前内閣府原子力委員 元富士常葉大学 教授
2 2009年9月15日	COP15に向けた攻防 ／各国の政策決定過程の違いから見る	竹内 敬二	朝日新聞 編集委員
3 2009年9月29日	持続可能な発展と マルチステイクホルダー・ガバナンス	谷本 寛治	一橋大学大学院 商学研究科教授

パート3. 暮らしと環境

回目	テーマ	講師	
1 2009年10月6日	築地市場から“すし種”を通して 考える環境問題	栗竹 俊夫	NPO法人築地銀鱈会 理事長
2 2009年10月13日	お買い物で自分を変える、世界を変える	竹広 隆一	第3世界ショップ 事務局長
3 2009年10月20日	衣類のフットプリント	篠 健司	パタゴニア日本支社 環境担当

パート4. 生物多様性

回目	テーマ	講師	
1 2009年11月10日	獣害・なぜ増える・どう防ぐ ーわるいのは野生動物なのか？ー	井上 雅央	(独)農研機構 近畿中国四国農業研究 センター鳥獣害研究チーム長
2 2009年11月17日	トキの野生復帰は自然との共生の目標	高野 毅	トキの野生復帰連絡協議会 会長
3 2009年11月24日	森との共生アニマル・パスウェイ ー共生の具体化を目指してー	湊 秋作	キープやまねミュージアム 館長

<特別講座>

特別講座として、2009年12月に損保ジャパン本社ビルにて「損保ジャパン・首都圏ふれあいの森」協定記念シンポジウムを行いました。これは2009年3月に埼玉県、嵐山町、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会、損保ジャパンの4者で森林づくり協定を締結したことを記念し、広く市民の皆様に森林の価値や重要性について考えていただく機会として開催したものです。

パネルディスカッションでは、まず元林野庁長官の加藤鐵夫氏より森林の価値に関するレクチャーをいただき、続いて自治体や林業の現場で実践されている方や、森林での環境教育や医療などに取組まれているNPOの方などと共に、森林の現状と課題について議論をしました。

講演ではC. W. ニコル氏より、長野県で長く実践してきた森林の復興、子供たちへの教育の様子を豊富な映像と共に紹介いただき、森林協定記念にふさわしい内容となりました。当日は270名の観客が参加され、ほぼ満席の会場は熱気にあふれました。

東京都	テーマ	講師	
2009年12月5日	森のチカラ ～森と人との共存を考える～	パネリスト 池谷 キワ子 加藤 鐵夫 高橋 兼次 増田 直広 コーディネーター 瀬田 信哉 講師 C.W.ニコル	林業家、NPO法人森づくりフォーラム理事 (社)日本森林技術協会専務理事 埼玉県嵐山町副町長 (財)キープ協会環境教育事業部  (社)日本環境教育フォーラム理事  作家、(財)C.W.ニコル・アファンの森財団理事長

②各種シンポジウム・研究会への協賛（予算200万円、実績154万円）

環境問題の普及・啓発活動に対し、6件（154万円）を助成しました。

(単位:万円)

	団体名	プロジェクト名	実績
1	環境経済・政策学会	環境三学会合同シンポジウム2009	50
2	第10回SCAR国際南極生物シンポジウム 国内組織委員会 ※注1	第10回SCAR国際南極生物シンポジウム開催	30
3	菜の花プロジェクトネットワーク	第6回全国菜の花学会・楽会in東近江開催事業	30
4	東京ボランティア・市民活動センター	市民社会をつくるボランタリーフォーラムTOKYO2010	3
5	日本環境協会全国地球温暖化防止活動 推進センター	JCCCA10周年記念シンポジウム 「25%削減の実現に向けた新しい温暖化防止活動」 ※注2	40
6	新宿環境活動ネット	「エコぼけ」制作、発行	1
合計			154

※注1：SCAR=Scientific Committee on Antarctic Research、南極研究科学委員会

※注2：JCCCA=Japan Center for Climate Change Actions、全国地球温暖化防止活動推進センター

(3) 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成

(事業予算計611万円、実績計420万円)

①「環境保全プロジェクト助成」(予算300万円、実績300万円)

昨年度再開した公募を今年度は本格的に展開し、昨年度に比べ募集時期を早めると共に長期間の受付を行い(9～10月)、応募総数が62件と増加しました。(前年度の応募総数は5件)

11月27日の認定委員会において10件を選定し(総額300万円)、助成しました。

(単位:万円)

NO.	団体名	都道府県	プロジェクト名	実績
1	特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会	東京都	学校教育における、里山保全を取り入れた 環境学習プログラムの構築ならびに普及	30
2	伊丹市立瑞穂小学校PTA (みずほ花倶楽部)	兵庫県	環境プロジェクト	30
3	倉沢里山を愛する会	東京都	倉沢里山を愛する会 活動開始満10周年記念出版 (倉沢里山のいきものハンドブック)(仮称)	30
4	未来につなぐ環境ボランティア 環境学習サークルみえ	三重県	地域の人と創る「わくわく環境体験教室」 開催で“地球温暖化を伝えます”事業	30
5	北海道音更高等学校	北海道	風倒木の炭づくり カーボンニュートラルを目指す エネルギーの地産地消推進プロジェクト	30
6	特定非営利活動法人 環境文明21	東京都	都市と農村との連携でつくる環境と健康に 配慮した「食と農」の実践運動	30
7	紀州灘環境保全の会	和歌山県	日本最北限サンゴ群集保全プロジェクト	30
8	NPO法人南山の自然を守り育てる会	東京都	稲城市南山王地区画整理事業における開発地 権者と自然保護団体との協同里山再生プロ ジェクト	30
9	東京・森の学校	東京都	東京の森林と暮らしを見つめる啓蒙活動 ～持続可能な森林の実現を目指して～	30
10	社団法人日本国際民間協力会 (NICCO)	京都府	生物多様性保全型農法である冬期湛水型不耕 起稲作の圃場拡大と地域への定着を目指した 生産者応援事業	30
				300

②「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」の指定による助成(予算200万円、実績0円)

「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンドからの指定による助成」は、2009年度より損保ジャパン本体の「ちきゅうくらぶ事務局」より直接寄付する形式に変更しました。

#### (4) 環境保全に係わる学術研究に対する助成（事業予算計531万円、実績計452万円）

##### ①学術研究助成（予算150万円、実績150万円）

13件の応募があり、8月6日の選考委員会において5件を選定し（総額約150万円）、助成しました。

（単位：万円）

申請者	所属大学院名	研究テーマ	推薦者	実績
1 岩崎 茜	一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程総合社会科学専攻 社会文化研究分野所属	アルド・レオポルドの自然環境思想の研究 ー環境倫理教育の実践に向けてー	一橋大学大学院 社会学研究科 教授 岩佐 茂	30.0
2 大瀧 正子	立命館大学大学院 国際関係研究科国際関係学専攻 博士後期課程 高橋伸彰研究室	持続可能性における世代間の衡平性の経済学的 規範研究 ー地球温暖化問題の補償原理を事例にしてー	立命館大学 国際関係 学部 教授 高橋 伸彰	30.0
3 井坂 暢也	京都大学大学院 地球環境学舎 地球環境政策論分野 松下研究室	環境自治体における部門間の政策連携・政策 調整への政策手法	京都大学大学院 地球環境学舎 教授 松下 和夫	26.8
4 鈴木 佑記	上智大学大学院 外国語学研究科地域研究専攻 寺田勇文研究室	(仮題)地球環境主義時代における熱帯性海洋 資源管理の動態:「漂海民」モーケンによる特殊 海産物利用をめぐる	上智大学大学院 教授 寺田 勇文	30.0
5 蔡 佩宜	京都大学大学院 地球環境学舎 地球環境学専攻 地球益経済論分野	環境政策立案支援のための多基準分析による 評価方法に関する考査(仮)	京都大学 地球環境学舎 准教授 森 晶寿	30.0
				146.8

##### ②研究会（予算200万円、実績127万円）

環境法と環境経済学の学際的研究を行う「環境法と環境経済学に関する研究会」では、研究テーマ「環境リスク管理と予防原則」について、植田和弘（京都大学大学院経済学研究科教授）、大塚直（早稲田大学法学部教授）の両主査を中心に研究し、その成果を出版すべく準備を進めてまいりましたが、全筆者の原稿がとりまとまり、2010年度第一四半期に出版いたします。

（注）予防原則（precautionary principle）

「将来生ずる可能性のある環境関連の損害を防止するために未然に措置をとること、科学的不確実性を理由にとるべき措置を延期しないこと」を要請する原則

#### (5) その他の活動

##### ①情報発信

外部へ環境財団の取組みを情報発信することを目的として、来訪される企業や自治体、団体等に対する事業内容の説明のほか、外部団体の主催によるシンポジウム等への参加、大学での出張講義等を行いました。

<例> 損保ジャパン販売企画部・代理店後継者への研修講師（7月）

日本環境教育学会第20回大会パネルディスカッション講師（7月）

損保ジャパン社員向け・環境を仕事に活用する研修（7、9月）

田んぼ国際教育会議パネルディスカッション講師（11月）

ESD-J主催「ESDカフェ」講師（12月）

フェリス女学院大学 NPOに関する授業講師（1月）

②「損保ジャパン・首都圏ふれあいの森」事業への支援

株式会社損害保険ジャパンは、埼玉県嵐山町の森林（8.29ha）について、CSR推進の一環として森林づくりに関する協定を2009年3月に締結しました。損保ジャパンとしては他に、高知県「損保ジャパンいきいき共生の森」、香川県「香川・損保ジャパンの森」、鳥取県「損保ジャパン・とっとり共生の森」、三重県「損保ジャパンふれあいの森」、徳島県「とくしま協働の森づくり事業」を含め、全国6ヶ所で森林協定を締結しています。

嵐山町における今年度の取組みとして、3つの森林イベントを開催しました。いずれもプログラムづくりや当日の進行に関して、森林協定のパートナーであるNPO法人樹木・環境ネットワーク協会と全面的に協働のうえ開催しました。いずれも損保ジャパンの社員、代理店およびその家族など、多くの方が参加されました。

- |       |       |          |      |         |
|-------|-------|----------|------|---------|
| <第1回> | 2009年 | 5月17日（土） | 植樹   | 約230名参加 |
| <第2回> | 2009年 | 8月8日（土）  | 下草刈り | 約40名参加  |
| <第3回> | 2009年 | 11月7日（土） | 間伐   | 約100名参加 |

今後も毎年、定期的に様々な森林保全活動を展開していく予定です。損保ジャパン環境財団として、より効果的な環境教育の機会となるよう、支援してまいります。